

9) Ozmiš-Tigin was kan geworden. Im Schafjahre zog ich aus. Die zweite Schlacht im ersten⁽²⁾ Monat, den sechsten Tag (kämpfte ich?)……

10) (ihn?)⁽³⁾ nahm ich gefangen, seine Gattin nahm ich da (für mich). Das Türkvolk wurde dort gänzlich(?) vernichtet. Danach, im Hennejahre …… volk …… erfahren habend,

(1) 文中 Ranstedt 氏が Schafjahre 即ち羊の年と譯せるものは原文に 𐰽𐰺𐰍𐰏𐰤𐰆𐰚𐰏𐰍 = goi jilga とありて正しき譯なれど、氏が之を *qoi jilga* と音譯したるは如何なる理由に因れるか知り難し、此の羊の年は天寶二載（七四三年）に相當す。

(2) *im ersten(?) Monat* と譯したるは、原文には 𐰽𐰺𐰍𐰏𐰤𐰆𐰚𐰏𐰍 即ち 𐰽𐰺𐰍 と讀まるゝ文字が缺け乍らに存せると、 𐰽𐰺𐰍 (月) の字が存せるとによりて之を *ajilki aj* 即ち第一の月と考へたるなり、一より十二に至る迄の順序數詞に於て 𐰽𐰺𐰍 を語尾とするものは第一即ち *ajilki* のみなれば、氏の此の譯は正鵠を得たるものなるべし。

(3) 𐰽𐰺𐰍 は文字の缺落せる間に氏の補入したるものなれ共「……を余は捕へたり、其の可敦を余は取れり」と記せるなれば、「彼を」即ち Ozmiš-Tigin (烏蘇米施特勤) を捕へたるものと解釋せるは誤に非るべし。

茲に新たに可汗になれりと記さるゝ Ozmiš-Tigin は勿論漢史に烏蘇米施可汗と記せるものに外ならざれば、碑文の記事に依れば、此の可汗は拔悉蜜との戦中に殺されたるには非ずして、實は回鶻部の參加したる此の戦に於て、回鶻の磨延啜の爲に擒にせられたるものなりとす、思ふに回鶻部に捕へられたる後に於て殺され、當時可汗を稱したる拔悉蜜部の名によりて、其の首を唐に送りたるものなるべし、唯だ碑文に據れば、此の戦は羊の年即ち天寶二